

京の銘菓・老舗

16

宇多法皇が盛夏の衣笠山の松に白妙を打ち掛けで雪景色の風趣を愛でたという故事に因んだ「衣笠」は、初春の寿ぎにも相応しい銘菓。京菓子の世界を彩り極める亀屋重久の7代当主に美味へのこだわりをお聞きしました。



衣笠

福豆

京都の北西、臨済宗の本山として名高い妙心寺の北門前に位置する京菓子司老舗の亀屋重久。近辺は世界文化遺産の仁和寺、龍安寺、金閣寺などが点在する名刹の地で、衣笠山の麓から嵯峨野、嵐山へと続く「きぬかけの路」も室町時代に花開いた歴史・文化を探訪する人々で四季を通じて賑わっています。亀屋重久の創業は享和2(1802)年。これは檀家寺の過去帳によるもので、実際はさらに時を遡ると考えられています。創業時は京都御所の近くに店を構え、九条公爵家や冷泉伯爵家に出入りを許されて、昭和3(1928)年の昭和天皇御即位御大典の際には九条・冷泉御両家を通じて銘菓「衣笠」が両陛下に献上され、大和権原神宮御参拝の折にはお召し上がりを賜わる光栄に浴しています。さらに、平成11(1999)年には今上両陛下旧御室御所仁和寺へ御行啓のみぎりにお召し上がりいただき、誉れの歴史を受け継いできました。昭和6(1931)年に現在の地に移転し、仁和寺御用達、妙心寺内塔頭、神護寺などの御用を日々努めています。

初代から4代目までは「亀屋」の後に代々当主の名を付け、5代目から「亀屋重久」を名乗るようになり、当代は7代目です。「手づくりの少量生産を守り続けています。何よりも大切にしているのは『おもてなしの心』。お客様の『美味しい』というお言葉が励みになっております。食材の吟味にこだわり、例えば小豆の炊き加減などによって弊

店ならではの味わいを極め続けていきたいと願っています」。亀屋重久を代表する「衣笠」は、落雁製で柔らかな食感と上品な甘さが際立ちます。昔、宇多法皇が真夏に松のおい茂った衣笠山に雪を模して白妙(白絹)を打ち掛け、冬景色の

風情を愛でたことから衣笠山は「絹かけ山」と称されるようになりました。この故事に因んだのが「衣笠」です。白は雪、抹茶の緑は松を象徴し、中には極上の小豆のこし餡が入っています。新春の寿ぎにも相応しい銘菓です。ちなみに、「衣笠」の掛紙は橋本関雪画伯の意匠によるものです。この他にも、妙心寺の開祖関山国師の名に因んだこし餡入りの焼き菓子「関山」、麸焼き煎餅に柚子の砂糖引きを施した「おむろ」、州浜製にて名勝雙ヶ岡を表した州浜・こし



餡入りの「雙ヶ岡」などじっくりと賞味してみたい銘菓が数多くあり、季節の彩りが映える四季の生菓子も多彩に取り揃えられています。

京菓子司 亀屋重久

京都市右京区一条通妙心寺北門前

TEL 075-461-7365

営業時間 10:00~19:00

定休日 木曜日

